

自閉症・情緒障がい特別支援学級（かがやき学級）自立活動学習指導案

日 時 平成29年10月11日（水） 公開授業Ⅱ
 児 童 4名（3年生男2名，4年生1名，6年生1名）
 指導者 西城 由美子
 支援員 飯 田 千 明

1 活動名 「思いを伝えよう Ⅱ」 ～紙すき活動を通して～

2 活動について

(1) 活動設定の理由

〈児童観〉

本学級は，3年生，4年生，6年生の男子4名で構成されている。児童たちは，身近生活や日常生活においては自立できていることが多い。認知や運動の能力も高く，交流学級での学習に8割程度参加できている児童もいる。その反面，人間関係の形成やコミュニケーションに課題を抱える児童が殆どであるため，学級全員で一つの活動に仲良く取り組むことに困難さを感じる。自分の思いや願いはあるものの，学級や集団活動のなかで，自分の気持ちを調整して一連の流れで取り組むことが難しい。また，集中して作業に取り組むことや文字を書くことに強く抵抗を示す児童もいる。そのため，自分の意見が通らないと怒ったり泣いたりするなど，他者と関わり合いながら活動する場面で苦戦する姿が見られる。その原因として，変化の多い集団活動に強い不安を感じることや集団で計画を立てたりルールを守ったりして楽しく活動できた成功経験が少ないこと，感情のコントロールや適切な言動の仕方が分からないことなどが考えられる。

〈活動の価値〉

以上のような実態から，自立活動の「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」に焦点を当て，個々の課題を解決できる「思いを伝えよう」を設定した。Ⅰ期（4月～7月）は，親子で協力して畑を耕したり野菜の苗を植えたりしたことから，協力してくれた家族へプレゼントを贈りたいという思いが高まった。Ⅱ期（8月～10月）は，家族へのプレゼントを考える活動をする。児童は，工作を作ったりプレゼントを贈ったりすることが好きであり，学習発表会の招待状や年賀状，しおりなどをプレゼントすることは，自分の思いを伝えたり字を書いたりするなどの課題克服の機会を設定できる。さらに，協力する，友達の意見を聞く，感情をコントロールなどの課題場面を設定することもできる。思いを伝えようの活動を通して，友達と一緒にできたという成功経験を積み集団活動に参加する意欲を高めるものである。

そこで本活動では，家族などへの自分の思いを伝える活動として，思いを伝える用紙を作るために「紙すき」に取り組む。紙すきの活動においては，友達とコミュニケーションをとったり協力したりすることによって，成就感を味わうことができるようにする。

〈指導観〉

本活動は，一人では作業することが難しい紙すきを取り入れ，丁度よい厚さと自分が考えたデザインが上手く表現できるように，二人組を作って協力しながら活動させる。「どのようにしたいか。」「何を手伝ってほしいのか。」などを確認する。活動のなかで，それらをしっかり伝えることができたときには，児童に伝わりやすい称賛として，個々のシールを蓄積して，児童が振り返ったり自己肯定感を味わったりすることができるようにする。

(2) 児童の実態

観点 児童	実態		
	心理的な安定	人間関係の形成	コミュニケーション
A (3年男)	集団で活動することが苦手である。活動内容や状況の変化によって不安になり，活動が滞ることがある。	自分の意志を言葉や動作，表情で表すことが難しく，友達と一緒に物を作ったり育てたりすることが苦手である。	他者からの働きかけに消極的であり，失敗をおそれ，活動の前から拒否することが多いが，少しずつ体験や思いを伝えられるようになってきた。

B (3年男)	興味のある活動を始めてしまうと、なかなか他の活動に切り替えることが難しく、声掛けされると怒ったり泣いたりする。	特定の大人と関係を作ることとはよくできるが、友達の動きを見ながら簡単な役割を意識して行動することは苦手である。	困った場面では、自分の気持ちを伝えられず、急に大きな声をあげて泣き出すことが多い。冗談を本気で受け止めてしまい、トラブルになる。
C (4年男)	自分が失敗したことで落ち込む傾向が強く、自信をもって行動することができにくい。	大人や友達と共同して活動に取り組むことができる。しかし、自分に与えられた役割を最後までやり遂げることは難しい。	相手や場面に応じて、丁寧な言葉遣いで話すことができるが、自分の気持ちや考えを強い口調で友達に伝えることがある。
D (6年男)	他者との適度な距離感がつかめず、集団で活動することが苦手である。否定的、消極的な言動が多い。	集団活動のなかで気持ちを調整することが難しく、自分の失敗や間違いを受け入れることができない。	「ところで」という前置きで話す自分の伝えたいことが言える。しかし、相手の立場を推察できにくく、一方的に話しかけてしまうことが多い。

3 活動目標

(1) 全体目標

- ア 家族に感謝の気持ちを持ち、文や言葉で表すことができる。
- イ 友達と協力して、最後までやり遂げることができる。
- ウ 相手の話を正確に聞き取ったり、伝えたいことを簡潔に話したりすることができる。

(2) 個人目標

児童	個人目標
A (3年男)	ア 家族に感謝の気持ちを持ち、言葉で表すことができる。 イ 友達と協力して、紙すきでしおりを作ることができる。 ウ 友達と意見を出し合いながら、工夫して紙すきをしようとする。
B (3年男)	ア 家族に感謝の気持ちを持ち、文で表すことができる。 イ 友達と協力して、紙すきで便箋を作ることができる。 ウ 友達と話し合いながら、思い通りのものを作ろうとする。
C (4年男)	ア 家族に感謝の気持ちを持ち、文で表すことができる。 イ 友達と協力して、紙すきで便箋を作ることができる。 ウ 友達と話し合いながら、よりよいものを作るために工夫しようとする。
D (6年男)	ア 家族に感謝の気持ちを持ち、文で表すことができる。 イ 友達と協力して、紙すきで便箋を作ることができる。 ウ 友達と話し合いながら、仲良く作ろうとする

4 指導計画 (総時数 26時間)

期	主な学習活動・内容	時数	準備
I 期 (4~7月)	1 野菜を育てよう。 * () は親の協力あり (1) 親子でじゃがいもを植える。(畝作り, マルチかけ) (2) 夏野菜&さつまいもを植える。(トマトの屋根かけ) (3) 親子でじゃがいもを掘る。(畑の後始末) (4) 大豆, カボチャを植える。(畝作り)	9	・マルチビニール ・肥料 ・じゃがいも ・トマト苗 ・サツマイモ苗 ・ピーマン苗 などの野菜苗&種
II 期 (8~10月)	2 牛乳パックで紙すきをしよう。 (1) 誰にいつプレゼントするか考える。 (2) どのようなデザインにするか考え, 必要なものを集める。 (3) 紙すきの練習をする。	12 本時 (10/12)	・紙すきの道具

	(4) プレゼントするための紙をすく。・・・本時(3/4) (5) プレゼント用の紙を選び仕上げる。		
Ⅲ期 (11～3月)	3 感謝の気持ちを伝えよう。 (1) 家族への感謝の気持ちを文や言葉で表す。 (2) 家族以外の人へ感謝の気持ちを伝える方法を考える。 (3) プレゼントの仕方を練習する。	5	・オリジナルの紙すき 用紙

5 本時の学習(19/26)

(1) 全体目標

ア 紙すきの活動を通して、二人で協力して活動する楽しさを味わうことができる。

イ 図案を見ながら作る場面において、自分の考えを友達や教師に分かりやすく伝えることができる。

(2) 個人目標

児童	個人目標
A (3年男)	ア 友達(ペア)の紙すき枠を外したり水分を取ったりして手助けし、思い通りのものができたら共に喜ぶことができる。 イ 図案通りにできるように友達(ペア)に大事に作業したいところを伝え、「手伝ってください。」と丁寧に話すことができる。
B (3年男)	ア 友達(ペア)がどの部分を手伝ってほしいと思っているのかを確かめて協力し、思い通りのものができたら共に喜ぶことができる。 イ 自分の思いを友達(ペア)に伝え、協力してほしいところを分かりやすく話すことができる。
C (4年男)	ア 手伝ってほしいところを考え、よい仕上がりになるために友達(ペア)と協力して作業し、思い通りのものができたら共に喜ぶことができる。 イ 図案を見せながら、思い通りのものができるように、協力してほしいところを友達(ペア)に分かりやすく伝え、友達に教えながら作業することができる。
D (6年男)	ア 友達(ペア)から手伝ってほしいと頼まれたところは、友達の思いを汲み取りながら協力して作業し、思い通りのものができたら共に喜ぶことができる。 イ 図案を見せながら自分の思いを友達(ペア)に分かりやすく伝え、友達に「〇〇してください。」と、その都度自分の意志を伝えることができる。

(3) 指導及び支援の手立て

特別支援学級では、学級農園を利用して親子で野菜作りをしている。児童の実態から、みんなで協力したり感謝したりできるような活動をするためである。親子で野菜作りに取り組むことにより、身近な家族に感謝する気持ちを育てることができる。と考える。

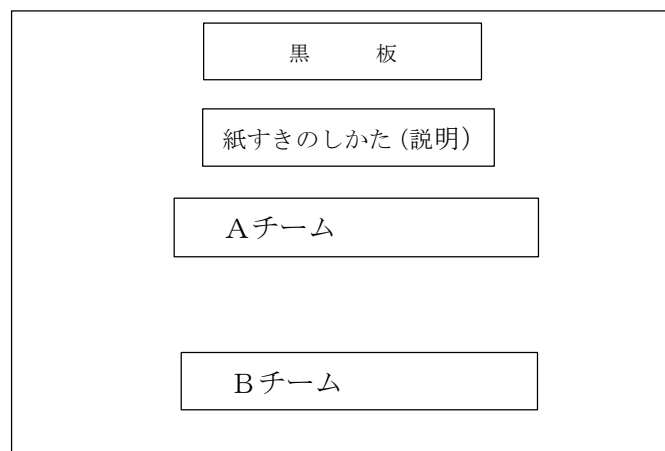
児童たちは、これまで親子でじゃがいも植えや収穫をしたり畑の畝作りを手伝ってもらったりと、畑で野菜を育てるために家族から様々な協力をしてもらい、感謝の気持ちを込めてヨモギ団子をプレゼントした。また、学級活動の時間を使って家族への感謝の気持ちが高まってきている。今までの学習を経て、今期は、児童が家族に感謝の気持ちを伝えるための「紙作り」の活動を設定する。次期の「自分で作った紙に感謝の言葉を表す」活動につながるものである。「書く」活動には、すべての児童が苦手意識をもっていて、今まで1文字も書いたことがない児童もいる。そのため、今期の活動により、書くことに対する抵抗感を減らすことができるようにする。本時では、オリジナルの用紙作りをする。物を作ることが好きな児童が多いことから、紙の色やデザインを考え自分のオリジナルの用紙を作るとは、意欲が高まるであろう。児童が前もって考えた図案(デザイン)をもとに、二人組で協力して用紙を作っていくことができるようにする。用紙の大きさは、一人では扱いにくいA4サイズにし、どのようにすれば上手くできるかを二人で話し合わせたり、友達にしてほしいことを伝えたりできるようにする。また、自分の図案の一番のポイントを友達(ペア)にはっきりと伝えることにより、どんなことに気を付けて協力すればよいかははっきり分かるようにする。さらに、枠を外したり水分を取ったりする場面や、用紙をひっくり返す場面では二人で協力しなければ上手くいかないと予想されるため、それらの場面では、気持ちを合わせて協力できるよう、声掛けして支援したい。

(4) 展開

過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点 (支援◎)	準備
導入 (2分)	1 始めの挨拶をする。 2 本時の学習内容を話し合う。 二人で協力して「世界に一枚だけの紙」を作ろう。	<ul style="list-style-type: none"> 号令に気づき、始まりを意識できるように言葉かけをする。 本時の学習内容と活動の流れを伝えて期待感を高め、見通しをもって活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙板書
展開 (36分)	3 用紙作りをする。 (1) 道具の準備をする。 (2) 紙すきをする。 * Aチーム・・・[A児, C児] 主担当・・・教師 * Bチーム・・・[B児, D児] 主担当・・・サポート 〈紙すきの手順〉 ①白布を敷いた枠の中に原材料をすくい取る。 ②図案を見ながら自分の思いを表現する。 ③原材料を枠からはがし、枠を片方外す。 ④片面に布と板を乗せて押し、水を脱水する。 ⑤ひっくり返してもう一枚の枠を外す。 ⑥板を乗せて押し、さらに水を脱水する。 ⑦タオルを使って、水分を吸収する。 ⑧そっとタオルと布を外す。 ⑨ホワイトボードに貼って乾かす。 (3) 用具の片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な道具が揃っているかを、ペアで確認する。 児童が考えた図案を掲示して、みんなに分かりやすくする。 (A児)「これでどうかな。」「手伝ってください。」等の、友達の意見を求めるときやお願いするときには、自分の言葉で言えるようにする。C児の紙すき枠を外したり水分を取ったりすることができるようにする。 (B児) 自分の図案のポイントをD児に分かりやすく伝え、協力を求めることができるようにする。D児の思いを確認し、協力することができるようにする。 (C児) 自分の図案をA児に見せながら、協力してほしいところを分かりやすく伝えることができるようにする。A児の図案を見て、上手くできるように工夫したり、A児に確認しながら協力したりできるようにする。 (D児) 自分の図案をB児に見せながら、自分の思いを分かりやすく伝え、「〇〇してください。」と、B児に協力を求めることができるようにする。B児の思いを汲み取って協力することができるようにする。 牛乳パックを「ちぎる」、「煮る」、「ビニールをはがす」、「ミキサーで粉碎する」、「原料液を作る」の行程については、本時より前に作業を進めておく。 行程を分かりやすく掲示する。 A4サイズの紙すき枠を使用する。 紙すきの手順を確認し、理解を促す。 ◎ 二人で紙すきの枠を使用するため、一人の作品を二人で協力して作りあげて確認する。 協力しなければいけない場面を確認する。 ◎ 時間制限内に終わるために、一人分に時間をかけすぎないように、タイマーを使って時間を計るようにする。 ◎ 手順に従って、協力しながら進められるように「相談してね」「お願いしてね」「時間を見ながらね」等の言葉かけをする。 ◎ 児童が戸惑っているときには、「困っていることがありますか？」等の言葉かけをし、二人で進めているときにはあまり口出しせずに見守る。 ◎ 教師は、「～できたら、すばらしいね。(かっこいいね。)」等の、主体的な姿を引き出す言葉かけをする。 教師は、支援員と情報交換しながら、手順通りに進めることができているかを把握する。 ◎ 教師と指導員は、児童の個人目標に応じて、「がんばったねシール」を提示したり安心できる言葉かけをしたりする。 協力や工夫に戸惑い、時間内に終わりそうにないと判断した場合は、チームの担当指導者は手助けをする。 紙すきが終了したら、後片付けをしながら待つように言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳パックの原材料 紙すきの枠 ざる 白布 板 タオル メジャーカップ 折り紙 花 葉 紐 手順の拡大図 図案 がんばったカード ざる コンテナ

		◎ 早く終わったチームは、他のチームの後片付けを手伝うように促す。	
終末 (7分)	<p>4 本時の活動を振り返る。</p> <p>(1) 出来上がった作品を見ながら振り返りをする。</p> <p>①二人で協力したところについて</p> <p>②作品の出来について</p> <p>(2) 次時の日にちを知る。</p> <p>5 終わりの挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話すことに抵抗のある児童がいるため、協力してもらったペアに「ありがとうカード」を手渡して、一言添えることができるようにする。 ・ 前もって考えた図案を参考に、友達が頑張ったところや工夫したところに気づくことができるようにする。 <p>◎ 教師と指導員は、担当したチームのよさを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①二人で協力して活動することができたか。</p> <p>②自分の図案をもとに、二人で相談して作ることができたか。</p> <p>③協力して後片付けできたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の日にちを知らせ、学習への期待感を高めるようにする。 	

(5) 場の設定



(6) 評価

ア 全体目標

(ア) 紙すきの活動を通して、二人で協力して活動する楽しさを味わうことができたか。

(イ) 図案を見ながら作る場面において、自分の考えを友達や教師に分かりやすく伝えることができたか。

イ 個人目標

児童	個人目標
A (3年 男)	<p>ア 友達(ペア)の紙すき枠を外したり水分を取ったりして手助けし、思い通りのものができたら共に喜ぶことができたか。</p> <p>イ 図案通りにできるように友達(ペア)に大事に作業したいところを伝え、「手伝ってください。」と丁寧に話すことができたか。</p>
B (3年 男)	<p>ア 友達(ペア)がどの部分を手伝ってほしいと思っているのかを確かめて協力し、思い通りのものができたら共に喜ぶことができたか。</p> <p>イ 自分の思いを友達(ペア)に伝え、協力してほしいところを分かりやすく話すことができたか。</p>
C (4年 男)	<p>ア 二人で協力すると上手くできるところを考え、よい仕上がりになるために友達(ペア)と協力して作業し、思い通りのものができたら共に喜ぶことができたか。</p> <p>イ 図案を見せながら、思い通りのものができるように、協力してほしいところを友達(ペア)に分かりやすく伝え、友達に教えながら作業することができたか。</p>
D (6年 男)	<p>ア 友達(ペア)から手伝ってほしいと頼まれたところは、友達の思いを汲み取りながら協力して作業し、思い通りのものができたら共に喜ぶことができたか。</p> <p>イ 図案を見せながら自分の思いを友達(ペア)に分かりやすく伝え、友達に「○○してください。」と、その都度自分の意志を伝えることができたか。</p>